

無量壽

第十一号(二〇一四年四月号)
発行 雲夢山壽命寺



今年も門前のソメイヨシノがきれいに咲きました。例年より長く楽しめました。(2014/04/04 住職撮影)

先月号の巻頭に三月なのにまだ雪がちらついていると書きました。それからひと月足らずで壽命寺門前の桜は満開となり、それも今はほぼ散つてしまいました。毎年の営みとはいえ、季節の移り変わりに「諸行無常」という仏教の教示を思い起こさずにはおれません。

壽命寺では来る五月十一日に毎年恒例の「永代経法要」をお勤めいたします。何もかもが移り変わっていくこの世にあって、変わらず私たちの進むべき道を示してくださいるのが仏法であり、それが言葉にまとめられたものがお経です。今私たちがお経に遇えたのは、ご先祖が何よりも大切にすべきものとして護り残してくださったからでありましょう。それならば私たちも同じようにして、それを後世に引き継いで行かなくてはなりません。このように「永代」に渡り

5/11
日曜日

◆蓮如上人五百回遠忌法要 ◆永代経法要

お「経」が引き継がれることを願う。これが「永代経」をお勤めする心です。

さらに今年と同じ日に「蓮如上人五百回遠忌法要」もお勤めします。蓮如上人は本願寺の第八代宗主で、日本全国に親鸞聖人のみ教えを広めたことで「浄土真宗の中興の祖」と仰がれるお方です。上人が認められた『御文章』の「白骨章」は「人間のはかなきことは老少不定のさかいなれば、たれの人もはやく後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて念仏申すべきものなり」という一文で結ばれます。

法要の頃は新緑が美しい頃でしょうか。移ろう季節に上人のお言葉を重ねつつ、二つの法要をしつかりとお勤めしたいと思えます。どうぞ、ご夫婦・ご家族とご一緒にご参拝ください。心よりお待ち申し上げます。

【連載】門徒物知らず!? ～浄土真宗の仏事作法

特別編

とここで・・・

蓮如上人って誰やねん!?

壽命寺では五月十一日に蓮如上人五百回遠忌法要をお勤めします。でも蓮如上人ってどんな人なのか、実はよく知らないという人も少なくないのではないのでしょうか。法要を迎えるまでにそのご生涯とご功績を簡単におさらいしておきましょう。



◆蓮如上人のご生涯◆

蓮如上人は一四一五(応永二十二年)年に京都にお生まれになりました。当時の本願寺は廃れた状態でお参りの方も少なく、経済的にも厳しい状況でしたが、父・存如上人について近江・北陸での教化に努められました。

一四五七(長祿元)年、存如上人寂にともない本願寺第八代宗主を継職。一層各地の教化に励まれます。その精力的な活動によって本願寺の教線は大きく伸展しました。しかしその急激な拡大に危機感をもった比叡山延暦寺から「仏敵」と目されることとなり、一四六五(寛正七)年には二度にわたって本願寺が破却されるなど、圧力が強まります。上人はこれに宗祖の御真影を奉じて近江の金森、堅田、大津と拠点を変えながら布教を続けられ、一四七一(文明三)年には、越前に吉崎御坊を建立されました。

吉崎には多くの参詣者がつめかけ、非常に栄えました。しかしここでも急速な発展が権力者や他宗との間に緊張を生むこととなり、上人は一四七五(文明七)年に吉崎を後にされます。

その後、摂津・河内・和泉への布教や河内国出口での御坊建立を経て、一四八一(文明十三)年に京都山科にて本願寺の再興を果たされました。「寺中は広大無辺、莊嚴ただ佛国のごとし」と言われたこの山科本願寺を拠点として、本願寺は今日のような全国的な教団へと発展することとなりました。一四八九(延徳元)年に隠居されますが、その後も精力的な活動を続け、一四九六(明応五)年には大坂石山に坊舎を建て(後の石山本願寺)、晩年も教化の手を休められませんでした。一四九九(明応八)年、山科本願寺で多くの弟子や門徒たちに見守られる中、八十五年のご生涯を終えられました。

◆蓮如上人のご功績◆

上人のご功績は親鸞聖人のみ教えを各地に広く伝えられたことに尽きますが、特筆すべきはその伝道方法です。遠隔の地域にも効率的にみ教えを届けるために各地に「講」と呼ばれる聞法コミュニティを組織し、そこへ浄土真宗の肝要を平易な言葉で説き示した手紙を送ったのです。今日的に言えば講はサークル、御文章はメルマガやブログと置き換えられるかもしれませんが、お手紙の数は生涯で二百通以上に及びますが、この内特に重要なものを編纂したのが、「御文章」です。

それから親鸞聖人のお書きになった「正信偈」を日常の勤行に定められたのも蓮如上人です。今日では浄土真宗といえば「帰命無量」と言われるほど正信偈が定着していますが、その始まりも蓮如上人にあったわけですね。

◆近江と蓮如上人◆

蓮如上人は若い時から近江の布教に力を注がれています。また一時期堅田の本福寺や大津の近松別院を拠点とされていたこともあり、そういうわけで、もしかするとこの雄琴にも布教においでになったことがあるかもしれませんし、どなたかのご先祖様が直接お会いになったということも十分考えられます。そう考えると蓮如上人がグッと身近に感じられますね。

【ご講師のご紹介】

三上 明祥 師(本願寺派布教使)



ご存知の方も多いと思いますが、堅田の本福寺さんの若さんです。昼の蓮如上人五百回遠忌、夜の永代経ともにお願ひしています。上にも触れている通り、堅田の本福寺さんは一時期蓮如上人が拠点とされたところであり、非常に縁が深いお寺ですので、この辺りの地域と上人の結びつきについても興味深いお話をお聞かせ頂けると幸いです。楽しみにしていってください。

【遠忌法要直前! お経の練習会のご案内】

今回の蓮如上人五百回遠忌法要では、蓮如上人のご功績を讃えた「奉讃蓮如上人作法」という、この法要用に制定された特別なお経をお勤めします。法要当日、本堂いっぱいにお経が響き渡るよう、皆様とともに事前練習を行いたいと思います。どうかご家族お誘い合わせの上、一人でも多くの方にご参加頂たく、下記の通りご案内申し上げます。

記

【とき】 5月9日(金) 20:00から(1時間程度)

【ところ】 壽命寺本堂

※お経の本はこちらでご準備します。念珠と、あれば式章をかけてお集まりください。